

平成 27 年度 みんなで支える森林づくり木曾地域会議（第 1 回）実施概要

1 開催日時 平成 27 年 7 月 2 日（木）13：25～15：00

2 開催場所 木曾合同庁舎 4 階 401・402 会議室

3 出席者

委員：神村光雄委員、唐澤達夫委員、下原洋子委員、栗屋正一委員
長渕昭子委員、古根妙子委員、古幡和久委員（五十音順）

木曾地方事務所：吉江所長、松原林務課長、巾崎林務係長、秋山普及林産係長、岡田鳥獣対策専門員、

報道：なし

傍聴：なし

4 主な意見等

（1）会議事項

平成 26 年度森林づくり県民税活用事業の実績及び、平成 27 年度森林づくり推進支援金及び木育推進事業について、説明を行い了承いただいた。

（2）意見交換

委員： 森林税の目的として森林整備を進めているが、現状の森林をみると若齢級が少なく、11 齢級以上が多くを占めるアンバランスな状態にあります。森林は循環できる資源であり、間伐などだけでなく、更新についても考える時期に来ているのではないのでしょうか。

林務課： 山は若い木から同じ面積ずつあることが望ましいが、実際は 50 年生、60 年生以上の林分が多くなっています。そのため、更新も進める必要があります。しかし 50、60 年前に比べると所有者の意欲が異なり、所有者が伐採更新を進めていくことは、今後難しい状況にあると考えられます。

委員： 何とか間伐などをして、林内に陽を当てて根がしっかり張る山

にしていくことが大事です。

林務課： 災害防止機能をみると戦後の山が荒れていた時代に比べ、山が成熟してきていること、治山などによる防災施設の整備、防災意識の高まりのおかげで、今は雨が多く降るが多くの死者のするような災害が発生しなくなっていると言われていています。我々が、今暮らしていただけるのも、先人が山に木を植えてくれたおかげだといえます。

委員： 今伐ってすぐに植えていこうというのではなく、林齢構成のバランスが取れた山を作っていくことが必要とのPRも大事だと思います。

委員： 手を入れていない山は、獣害も受けやすいので、手入れを進めていく必要がある。

委員： 今までは里山の整備が大きく言われてきたが、今後は里山だけでなく、奥地までも森林税を使うことも考えていただきたい。

委員： 南木曾等の災害は、昔もそうしたことがあったと聞いていますが、うまく対応できていなかったということだと思います。

委員： 今の植林はせまい間隔で植え、間伐して育てていくやり方であるが間伐しないので、根が育たないのではないかと思います。

林務課： 人工林は、本来は間伐を繰り返して、年輪成長を調整していくのが林業技術ですが、今は意欲が無くなり管理されていないことが問題です。

委員： 災害は、自然林で少なく、人工林に多いように感じる。また森林は、自然林、人工林の両方を含むのでしょうか。

林務課： 県全体の森林の針葉樹：広葉樹が6：4で、これを50年程度かけて針葉樹：広葉樹が4：6の比率になるように森林管理を進め

ており、その中で自然に生えてきた木も活用しています。森林は、自然林、人工林を含んでいる。

委員： 開田高原にお一人でドイツトウヒの 10ha を管理され、下層にはササバギンラン、ベニバナイチャクソウなどの植生が豊富となっているところがある。どの年代の人が行っても、一人でもできるいい山を見ることになり、森林管理の大事さを感じるいい経験になるのではないかと思い紹介する。

座長： 長野県の林務部には、現在困難な事案が出ておりますが、森林整備などの果たす役割は大きいことから、このことを以って林務行政が委縮することなく、ぜひ引き続き山づくりに取り組んでいただきたい。ここまで山ができてきたのは、これまでの積み重ねであり、貴部の功績として評価しています。木曾地域としては、県・林務部行政を支援していきますので、自信を持って進めていただきたい。